

第6回鴨叡会・生命分子化学科セミナー報告書

2012年3月21日（水）午後4時10分から、京都府立大学合同講義室棟3階第5講義室にて、志田 忠正 京都大学名誉教授による講演（演題名：単位がわかると科学がわかる）が行われた。春休み中にも関わらず、全体の約8割を占めた学部生または大学院生を含む、約40名が、熱心に聴講した。講演では、放射線の単位に始まり、電磁気学の単位や今後の単位の見直しに至る事柄まで、わかりやすくお話しいただいた。タイトルにもあるように、まさに「単位がわかると科学がわかる」内容であった。また特に3・11以来、我々科学者は当然知っておくべき基礎的な内容を、当時の新聞記事なども披露いただきながら解説された。さらに身近な放射線量として、京都市内のラジウム温泉や、同地域の花崗岩に含まれる放射線量のお話しなどもしていただき、学生も関心を持って聴講出来た。また同講演に先立ち、生命物理化学研究室の大学院生による以下の講演も行われた。

大学院生講演：原 小太郎（京都府立大学・生命環境科学研究科）

演題：X線一分子追跡法によるタンパク質構造変化の可視化

全体の講演は、盛況のうちに予定を超過し、午後6時20分に閉会した。



(2012年3月23日 織田昌幸)